一の学院をめざす。このことを、学院として明確に意思表示すべきでしょう。

追手門らしさを強調した人格教育という構想は大変すばらしいものです。

家族的雰囲気のある追手門学院の校風は、120年の歴史の中で培われてきたものですが、卒業生が校風を作ってきた、という側面があります。その意味で、学院が卒業生を取り込む、学院と卒業生との融合をはかることが必要です。

【鈴木学院長】

すでに始まっています。現に、川原さんにも学院に来て話をしてもらったように、いままで、卒業生に協力をお願いしていなかったものを、どんどん始めようとしています。最近出版した「追手門学院の履歴書」。これを重ねて出版していこう。この本を在校生に見せることによって、「卒業生にこんな人がいるのか」、ということがわかる。今までこういうことをしてこなかった。

同窓会の皆さんにご協力いただくことによって、卒業生自体にも愛校心を高めるきっかけになると思います。

「将来を考える日」の意義

【川原会長】

山桜会は、中高の現役生徒に対する社会学習として、卒業生が、「将来を考える日」の講師を担当しています。これが、中高のカリキュラムに組み込まれています。卒業生が、自分の社会経験を後輩に伝える、現役生徒の目を社会に向けさせる、様々な社会分野に関心を持たせる、という観点から、協力している活動です。

今後、山桜会に限らず大学校友会も、大学生を含めた後輩に、社会経験を伝える、というのは、卒業生としての大事な役割です。

同窓会活動の支部化

【大木理事長】

同窓会活動は、様々なツールを使わないといけないと思います。先程の本「追手門学院の履歴書」の出版、同窓会報の活用など、同窓会活動が、学院の活動と一体化できるほどのものがあればいいと思います。

私の希望として、山桜会も頑張っているが、山桜会医師会、山桜会弁護士会、のれん会もそうですが、山桜会という冠をつけた様々な同窓会活動を広めてもらいたい。同窓会というのは、様々な同窓の集合形式があります。

私も、大学の同窓会だけでも6つも入っています。

多様な同窓会活動が、活性化につながると思います。

【鈴木学院長】

同窓会の集まりには、地域があり、学年があり、職域があり、クラブがあります。私も、何重にも入っています。支部と言っても、地域だけでなく、様々な支部活動の重なりが大事ではないかと思います。

学院の発展に卒業生は不可欠

【川原会長】

大学校友会にせよ山桜会にせよ、卒業生の背中には、追手門ブランドが焼き付いています。卒業生は、追手門という看板を一生背負っていくことになります。その意味で、追手門の卒業生は、学院との協力関係が不可欠です。

学院の立場からも、卒業生は財産である、まさに人的財産だ、という認識を持ってもらいたい、と思います。学院の発展には、卒業生の力が大きく作用するのではないでしょうか。

追手門カードの実現

【川原会長】

卒業生の掌握という観点の中で、私も提案し、平野会長もお考えの一つに、「追手門カード」。これをぜひ実現していただきたい。

最近のクレジットカードには、ICチップが入っていて、多くのデーターが入ります。卒業生がこれを持てば、卒業生の証明にもなりますし、学院としても卒業生の動向を把握できます。現住所、住所移転、勤務先など。在校生が持てば、これが身分証明書になる。PTAが持てば、たとえば小学校の体育祭での入構証としてチェック機能が使えるなど、多機能な役割が果たせます。追手門カードの導入を、学院で検討をぜひお願いしたいと思います。

【大木理事長】

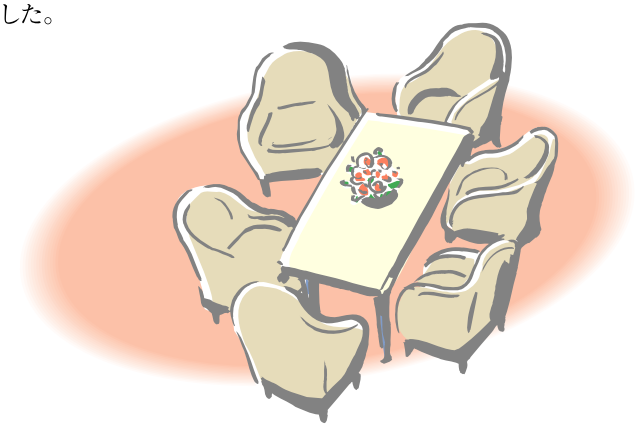
追手門ブランドの話もありましたが、山桜会と大学校友会を包む同窓会の大きな傘の実現、これをまさに追手門カードによって実現できるかもしれません。一番良いのは、学校に入ったときからカードを持たせる。小学生は無理としても、大学生など、入学時に学生証代わりに持たせるのが良いかもしれません。

【川原会長】

ありがとうございました。

今日は、山桜会から、生川広報委員長が同席していただきました。

総括をお願いします。

【生川広報委員長】

貴重なご意見を聞かせていただきました。今日の意見が、今後、学院全体にどのように伝わっていくのか、卒業生にどのように伝えていけばいいのか、を考える必要があります。今日の重要なご意見を実現していくことが大事なことだと思いました。ありがとうございました。